

講義コード Course code	021020102
講義名 Course title(Japanese)	文化人類学A
英文講義名 Course title (English)	Anthropology A
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	前期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日
時限 Period	4時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description

人間がもっとも知りたいこと。それは人間のことである。そして、自分のことは知っている（あるいは知っているつもりになっている）から、興味は自ずと他者へと向かうはずだ。けれども、そもそも、他者にはなれないのだから、他者を完璧に理解するなんて、どだい、無茶な話である。それでも、人間は人間のことを知りたがる。それだけ、他者を理解することは人間の根源的な欲求ともいえるのである。

人間を、そして他者を知りたくて、さまざまな学問が発達したが、その一つに、言語や社会といった文化的側面に照射する文化人類学がある。融通無碍で複雑怪奇な人間社会に挑む文化人類学は、しなやかで、かつ、誰でもが共感できるアプローチを信条としてきた。本講義では、より具体的な研究実践例の確認に力点を置きつつ、親しみやすい文化人類学をみなさんに提示したいと考えている。

コロナ禍において、他者との距離が広がってしまった今だからこそ、文化人類学を学んでほしいと思う。

到達目標 Course objectives

1. さまざまな人間文化の多様性を知り、国際化する社会に貢献できる力を養う。
2. 文化人類学の基本的な考え方に触れ、複雑な現代社会を理解する力を向上させる。
3. 文化の多様性を掌握することで、他者・異文化と真摯に向き合えるようになる。

授業計画表 Course plan

回 Class sessi ons	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	さまざまな民族：ヒトの多様性を概観する 人類の誕生：宗教と文化・文明の起源	ネットで構わないので、文化人類学に関する研究論文を検索し、読んでみてほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	文化とは何か?：社会の変容と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	文化人類学の射程：人種と民族の違い、言語の分布について	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第4回	文化人類学の名著①：マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	文化人類学の名著②：クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	文化人類学の名著③：マーシャル・サーリンズ『石器時代の経済学』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	文化人類学の理論①：文化（社会）進化論	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	文化人類学の理論②：機能主義	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	文化人類学の理論③：贈与論と交叉いとご婚	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	文化人類学の理論④：構造主義① ソシユールの言語論的転回	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	文化人類学の理論⑤：構造主義② レヴィ＝ストロースによる熱い社会 / 冷たい社会	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	神話の構造分析①：母系社会の神話と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	神話の構造分析②：父系社会の神話と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	呪術の人類学①：バングラデシュ・フィールドノート「呪術師の誕生」	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	呪術の人類学②：スリランカ・フィールドノート「死者を悼み、生者を扶く」	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。

授業計画コメント

Course outline

文化人類学はとても面白い学問だと講義担当者は考えている。そして人間のことを扱うので、個人から社会まで、幅広い領域（おそらくありとあらゆる分野）をカバーしている。そして、その視野は環境、経済、法律、教育にまでも射程に収めてしまう。文化人類学者・レヴィ＝ストロースが世界の思想を牽引し、構造主義の中心に君臨したのは偶然ではなく、必然だったのだ。文化人類学の入門としての本講義を是非、受講してみしてほしい。

授業の進め方**Session plan**

本講義は対面形式で行なう。ぜひ、主体的に取り組んでほしい。

アクティブラーニング**Active learning**

最終的にレポートを作成してもらう。講義期間中、レポート作成に関する個別相談は随時、受け付けるつもりである。自ら考えることで、文化人類学をエンjoyしてほしいと強く願っている。

授業時間外の学修（予習・復習等）**Preparation and review outside classroom hours**

最終的なレポートの作成を念頭におきつつ、適宜、学びを進めてほしい。

教科書等**Textbooks and materials**

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの)

Materials required for sessions

特になし。

参考図書**Reference book(s)**

祖父江孝男 1990 『文化人類学入門』, 中公新書.
綾部恒雄(編) 2006 『文化人類学20の理論』, 弘文堂.
そのほか、参考文献を適宜、お示しするので、貪欲に読み進めてほしい。

成績評価方法および評価基準**Evaluation criteria**

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点**Assessment criteria**

文化的事象を取り上げつつ、そのことについて、文化人類学的に考察してもらう。テーマは自由とするが、詳細な書式等については、追って、指示させていただく。

課題のフィードバック**Feedback**

授業内におけるフィードバックを心がけたい。適宜、オフィスアワーも活用してほしい。

学生へのメッセージ（履修上の心得）**Message to students (class guidelines)**

文化人類学はとても面白い学問である。とくに初めてのひとにとっては、衝撃的な内容となっており、発想の転換が訪れるかも知れない。文化、社会、環境、経済、法律、教育など、およそ考えつく、ありとあらゆる分野に応用が可能となっている。ぜひ、新しい「○○人類学」を、みなさん一人一人が構想してほしいと願ってやまない。

科目のレベル、前提科目など

Level / Prerequisites

特に定めていない。意欲さえあれば、どなたでも、文化人類学の勉強を始めることができる。

キーワード

Keyword(s)

文化人類学

講義コード Course code	021020101
講義名 Course title(Japanese)	文化人類学A
英文講義名 Course title (English)	Anthropology A
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	前期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	水曜日
時限 Period	1時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description

人間がもっとも知りたいこと。それは人間のことである。そして、自分のことは知っている（あるいは知っているつもりになっている）から、興味は自ずと他者へと向かうはずだ。けれども、そもそも、他者にはなれないのだから、他者を完璧に理解するなんて、どだい、無茶な話である。それでも、人間は人間のことを知りたがる。それだけ、他者を理解することは人間の根源的な欲求ともいえるのである。

人間を、そして他者を知りたくて、さまざまな学問が発達したが、その一つに、言語や社会といった文化的側面に照射する文化人類学がある。融通無碍で複雑怪奇な人間社会に挑む文化人類学は、しなやかで、かつ、誰でもが共感できるアプローチを信条としてきた。本講義では、より具体的な研究実践例の確認に力点を置きつつ、親しみやすい文化人類学をみなさんに提示したいと考えている。

コロナ禍において、他者との距離が広がってしまった今だからこそ、文化人類学を学んでほしいと思う。

到達目標 Course objectives

1. さまざまな人間文化の多様性を知り、国際化する社会に貢献できる力を養う。
2. 文化人類学の基本的な考え方に触れ、複雑な現代社会を理解する力を向上させる。
3. 文化の多様性を掌握することで、他者・異文化と真摯に向き合えるようになる。

授業計画表 Course plan

回 Class sessi ons	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	さまざまな民族：ヒトの多様性を概観する 人類の誕生：宗教と文化・文明の起源	ネットで構わないので、文化人類学に関する研究論文を検索し、読んでみてほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	文化とは何か？：社会の変容と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	文化人類学の射程：人種と民族の違い、言語の分布について	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第4回	文化人類学の名著①：マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	文化人類学の名著②：クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	文化人類学の名著③：マーシャル・サーリンズ『石器時代の経済学』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	文化人類学の理論①：文化（社会）進化論	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	文化人類学の理論②：機能主義	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	文化人類学の理論③：贈与論と交叉いとご婚	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	文化人類学の理論④：構造主義① ソシユールの言語論的転回	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	文化人類学の理論⑤：構造主義② レヴィ＝ストロースによる熱い社会 / 冷たい社会	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	神話の構造分析①：母系社会の神話と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	神話の構造分析②：父系社会の神話と家族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	呪術の人類学①：バングラデシュ・フィールドノート「呪術師の誕生」	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	呪術の人類学②：スリランカ・フィールドノート「死者を悼み、生者を扶く」	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。

授業計画コメント

Course outline

文化人類学はとても面白い学問だと講義担当者は考えている。そして人間のことを扱うので、個人から社会まで、幅広い領域（おそらくありとあらゆる分野）をカバーしている。そして、その視野は環境、経済、法律、教育にまでも射程に収めてしまう。文化人類学者・レヴィ＝ストロースが世界の思想を牽引し、構造主義の中心に君臨したのは偶然ではなく、必然だったのだ。文化人類学の入門としての本講義を是非、受講してみしてほしい。

授業の進め方**Session plan**

本講義は対面形式で行なう。ぜひ、主体的に、授業に参加してほしい。

アクティブラーニング**Active learning**

最終的にレポートを作成してもらう。講義期間中、レポート作成に関する個別相談は随時、受け付けるつもりである。自ら考えることで、文化人類学をエンjoyしてほしいと強く願っている。

授業時間外の学修（予習・復習等）**Preparation and review outside classroom hours**

最終的なレポートの作成を念頭におきつつ、適宜、学びを進めてほしい。

教科書等**Textbooks and materials**

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

（必ず購入すべきもの）**Materials required for sessions**

特になし。

参考図書**Reference book(s)**

祖父江孝男 1990 『文化人類学入門』，中公新書。
綾部恒雄(編) 2006 『文化人類学20の理論』，弘文堂。
そのほか、参考文献を適宜、お示しするので、貪欲に読み進めてほしい。

成績評価方法および評価基準**Evaluation criteria**

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点**Assessment criteria**

文化的事象を取り上げつつ、そのことについて、文化人類学的に考察してもらう。テーマは自由とするが、詳細な書式等については、追って、指示させていただく。

課題のフィードバック**Feedback**

授業内におけるフィードバックを心がけたい。適宜、オフィスアワーも活用してほしい。

学生へのメッセージ（履修上の心得）**Message to students (class guidelines)**

文化人類学はとても面白い学問である。とくに初めてのひとにとっては、衝撃的な内容となっており、発想の転換が訪れるかも知れない。文化、社会、環境、経済、法律、教育など、およそ考えつく、ありとあらゆる分野に応用が可能となっている。ぜひ、新しい「○○人類学」を、みなさん一人一人が構想してほしいと願ってやまない。

科目のレベル、前提科目など

Level / Prerequisites

特に定めていない。意欲さえあれば、どなたでも、文化人類学の勉強を始めることができる。

キーワード

Keyword(s)

文化人類学